

「平成28年度 第3回北杜市地域福祉計画策定委員会」会議録

1. 会議名：平成28年度 第3回北杜市地域福祉計画策定委員会
2. 開催日時：平成28年10月28日（金） 10時00分～11時40分
3. 開催場所：北杜市役所西会議室
4. 会議次第：
  - (1) 開会
  - (2) 会議録署名人の選出について
  - (3) 議事
    - ①第3次地域福祉計画（素案）について
    - ②その他
  - (4) 閉会
5. 出席者
  - (1) 出席委員（敬称略）

小林忠雄、小松亮太、茅野光一郎、中嶋登美子、日野水丈士、深沢智彦、  
宮崎亮子、吉田百加利
  - (2) 事務局  
平井市民部長、茅野福祉部長、三井介護支援課長、浅川健康増進課長、  
小澤子育て支援課長  
企画課小松課長、地域課中田防災調整監、福祉課大柴障害福祉担当リーダー、  
環境課田丸環境保全担当リーダー、観光・商工課日向商工担当リーダー  
福祉課 平島課長、渡辺、藤原
6. 傍聴人 なし

## 会 議

### 1. 開会（事務局 平島課長）

### 2. 会議録署名人の選出について

#### 【事務局】

会議録署名人は名簿順（五十音順）をお願いさせていただいている。第3回北杜市地域福祉計画策定委員会の会議録署名人は、中嶋登美子氏と日野水丈士氏が務めることとする。

### 3. 議事

これより、会長が議長となり次の通り議事を進行する。

#### ■（1）第3次地域福祉計画（素案）について

第3次地域福祉計画（素案）について事務局から説明がなされた。

#### 【議長】

意見は一括で議論した方が良いのか、それとも章ごとでも良いのか。

#### 【事務局】

章ごとの方が意見が出しやすいのであれば、章ごとの議論でも良い。

#### 【議長】

第1章について、ご質問や意見はあるか。

#### 【委員】

計画策定の趣旨について、福祉は従来、行政が「公助」でやっていたことを地域でも担っていただく計画だと思う。しかし、行政がこうした計画を策定しても、地域の方々の意識が変わらなければ意味がない。市民の意識を変えていくことを計画策定の趣旨に示していくべきである。

また、以前、長野県白馬村で大きな地震があったが、その際、地域に古くからある組織が良く機能していた。地域に昔からある組織というのは、いざという時にかなり機能するため、高齢化や人口減少など地域の変化はあるものの、住民はいざとなったら助け合うという考えは今も衰えていないのではないか。

#### 【議長】

大変参考になる意見である。ただし、どうしても核家族化や単身世帯の増加など、地域のつながりは希薄化してきており、地域で協力して何かすることが以前よりも難しくなってきた。

#### 【委員】

増富地区は3人に2人が高齢者と非常に高齢化が進んでおり、手の打ちようがない。し

かし、最近変わってきたことがある。それは地域の高齢者が自ら考え、行動するという意識の高まりである。介護に頼らず、自分でできることはやる、できるだけ自立して生活したいという方々が集まって活動している。

また、最近若い方々が地域で活躍している。地域に元気がなくなって困るということで、地域イベントでの交通整理などに協力してくれている。来月には増富もみじ祭りウォークを開催するが、地域の高齢者が各チェックポイントに居てくれたり、若い人が交通整理をしてくれたりする予定であり、町内で集まって、地域を盛り上げようという機運が高まっている。

**【議長】**

増富地区は最近、高齢者が多くても元気な地区として目立ってきている。高齢化率64%という環境下で、高齢者自らが奮い立っており、これからの北杜市のモデル地区とも言えるのではないかと。市の方には、良いモデルを育てて、また、宣伝をしてほしい。

**【委員】**

1ページの地域福祉の考え方について、福祉は市民が主役であるという記載は、以前から使われていた。先ほど他の委員から意見があったが、行政の考え方の変化に地域がついてくれるかが重要であり、市民が主役という言葉によりクローズアップして、地域福祉計画の中に市民が主役となる意識と立場を強調できる表現があっても良いと思う。

**【事務局】**

福祉は市民が主役という言葉は第1次福祉計画から記載しているが、市民が主役であることを計画の中でより上手く表現できるようにする。

**【議長】**

では、第2章について質問や意見はあるか。

**【委員】**

13ページに行政区の加入率の推移が記載されているが、私の住んでいる大泉地区が最も低く、加入率は50%を切っている。行政区に加入していただけない方他に、加入していたが辞めてしまう方がおり、辞めるのを無理に止めることはできない。行政区への加入にメリットを感じられないのであれば、しばらく加入されなくても良いかもしれないが、いずれは行政区の必要さを感じて戻ってきてほしい。

新たに移住してくる方々は地域との関わりを断って暮らしたいと思って移住してきている方もいるかもしれない。行政区に加入したくない方を無理に引き込むことは大変だと思うので、今後の地域活動を考える上では、行政区に加入されない方が増えることを煩うよりも、現在の行政区を活性化させて、行政区に入りたいと思ってもらえる組織や活動にすることが重要ではないか。

**【事務局】**

行政区に加入していない理由として、市民アンケートの結果では、「行政区に関する情報

や案内がない」、「家事や仕事が忙しい」「知り合いが少ない」などが上位に挙げられている。また、行政区の役職が多くて苦痛に感じている等の意見があった。

各支所では転入者に対して行政区の案内をしているほか、地域課では、各行政区の活動状況などの情報を集めており、取りまとめて、地域に還元できる仕組みを考えている。

#### 【議長】

北杜市は老人クラブの加入率が低い。また、地域によって加入率や活動の差が大きい。高齢者が外出をしないと、認知症の増加等が懸念されるため、高齢者がもっと活発に活動できるようにしていく必要がある。

高齢者が自分の健康に意識を持ち、活動をしている地域では、要介護認定申請率なども低くなっているのではないかと。

#### 【委員】

老人会の連合会としては頭の痛い話である。老人会では、移動手手段の不足や役員の担い手不足などが問題となっている。

高齢者が健康を維持していくためには、老人会などの活動を通じた「地域との接点」を持つことが大切であり、また、個々の意識改革も大事になってくる。

#### 【委員】

行政区加入率の数字について、地域によっては「準区民」という制度がある。準区民は、地域の清掃活動などには参加しないが、地域のごみステーションは利用したいという方々が加入している制度である。

準区民の方に情報を伝えるためには、区長が個別に一軒一軒回らなければならない。また、広報誌等を置いてある場所もあるが、取りに来なくて、そのままになっていることも散見される。準区民を含めた行政区加入率が高くても、必ずしも地域の行事がうまく回っているとは捉えられないと思う。行政区加入率には準区民の数も含まれているのか。

#### 【事務局】

行政区加入率の数字は各区長からの報告による広報誌の配布数に基づいている。そのため、行政区加入率は準区民も含まれた数値となっている。

#### 【委員】

この計画の「地域」という言葉について確認したいが、5ページに本計画における「地域」という言葉の使い方が掲げられており、ボランティア団体や地域交流など、様々な言葉を包括している。また、16ページの地域活動というカテゴリの中に行政区加入率が掲載されているが、行政区に入らないと地域活動に参加していないという印象を持たれてしまうのではないかと。

10ページの児童生徒数について、小学生と中学生の数が掲載されているが、生徒という言葉を使うのであれば、高校生の数も記載する必要があるのではないかと。また、合計特殊出生率などのデータを用いて、地域の少子化が進んでいることを示すことも良い方法かと思う。

ひとり親世帯として、父子世帯、母子世帯の数が示されているが、両親など他の家族との同居の有無について明確にしておかないといけないのではないか。

**【事務局】**

地域という言葉の使い方について、整合性を含めて修正させていただきたい。

児童生徒数について、学校基本調査で高校生の数が掲載されているか確認し、記載できるか検討する。また、合計特殊出生率についても、市が持っているデータなどを記載できるか検討する。

ひとり親世帯について、同居人の有無を把握していないため、厚生労働省などの基準等を踏まえて、記載方法を検討する。

**【子育て支援課長】**

ひとり親世帯の数に代わる指標として、児童手当の給付世帯数等の方が分かりやすいかもしれない。掲載する指標を改めて検討する。

**【議長】**

では、第3章について質問や意見はあるか。

**【委員】**

私事で恐縮だが、7月から3ヶ月間ほど入院をしており、介護支援課のお世話になった。入院中から自宅の階段に手すりをつけたりするなどの介護保険サービスを利用することを検討していたが、退院した今でも介護認定の申請結果が出ていない。基本理念に「安心して暮らすことのできるまちづくり」と記載されているが、安心というのは退院してからの生活だけでなく、退院前からの準備がしっかりできることも含まれるのではないか。退院と同時に介護保険のサービスを使える自治体もあるとの話を聞いているが、北杜市の場合には退院から1か月経っても介護認定がおりていない。北杜市の介護保険料は他の自治体よりも低いと聞いたが、安いだけでなく、質を高めることにも取り組んでいくべきだと思う。

**【介護支援課長】**

3ヶ月間の入院であれば、入院中に市の職員が病院のケースワーカーを訪ねて、退院後の生活や方向性等を話し合い、大概のケースであれば、退院後すぐに安心して暮らせる体制が整うようにはなっている。ただし、個別のケースについては、別途相談に対応する。

**【議長】**

最近では以前よりも病院を早期に退院するケースが増えている。退院後に円滑な生活が図られるよう、行政にも時代の変化に対応することに取り組んでいただきたい。

**【議長】**

では、第4章について質問や意見はあるか。

**【委員】**

46ページのボランティア団体の支援について、ボランティアにも有償と無償があるが、

有償ボランティアも対象として含まれているのか。また、他の自治体には、利益を優先する軽薄な団体も存在するとの話を聞いている。ボランティア団体を登録制にする、もしくは行政の役割として福祉に関わる団体の調査や管理をしていくべきである。

#### 【事務局】

最近是有償のボランティア団体も増加しており、有償ボランティアの団体も含まれている。ただし、ボランティア団体については社会福祉協議会に登録していないと個別の動きは分からない。

#### 【委員】

障がい児と関わる活動をしているが、子どもだけでなく、保護者が知的障がい等をお持ちのケースもある。市の保健師について、子どもが1歳くらいまでは関わってくれているみたいだが、家庭によっては、1歳を超えた子どもでも児童相談所に相談する必要があると感じるケースがある。市の保健師は子どもが何歳になるまで関わってくれるのか。

#### 【健康増進課長】

子育てにおける保健師の関わりについて、出産後1か月くらいまでに新生児訪問を行い、家庭の雰囲気等を把握している。その後、4ヶ月、7ヶ月、12ヶ月と訪問をしている。また、支援を必要とする子どもについては、個別にケアプランを立てて、包括的に支援をしている。支援する年齢についても、1歳までではなく、もう少し長いスパンで包括的に支援をする対応を取っているケースもある。

#### 【委員】

児童相談所の方も大変ということで、地域に子ども向けのシェルターなどが必要だと感じることもある。また、支援が必要な子どもに対して、ボランティアでどこまで行っていいのかわからないことがある。支援を行うことは簡単なのだが、あまり支援をしすぎてしまうと、ご両親のためにならないと感じることがある。

#### 【子育て支援課】

保健師の関わりや相談の窓口を広げて支援につなげていくということで、来年度に「子育て包括支援センター」を開設する。詳細は決まったところで周知させていただく。

#### 【議長】

健康寿命について山梨が全国で1位との報道があったが、北杜市ではどうなのか。

#### 【委員】

健康寿命について、国では山梨県が1位との発表がされたが、山梨県では科学的なデータに基づくものではないと判断しているようである。ただし、根拠の1つとなっているデータには要介護認定率が含まれていると思うが、山梨県の要介護認定率は国の平均と比べて低位であり、北杜市は山梨県の平均よりも更に低い。

## ■ (2) その他

(委員からの意見・質問等なし)

**【事務局】**

本日いただいた意見を踏まえて、素案の変更等をさせていただく。今後のスケジュールについて、11月に市長が交代となるため、新たな市長の意向なども必要に応じて計画に反映させていただく予定である。また、12月の議会で地域福祉計画について報告をさせていただき、来年1月以降にはパブリックコメントで市民から幅広くご意見を求める。これらを踏まえて、2月に策定委員会を開き、第3次地域福祉計画を決めていく予定である。

4. 閉会（事務局 平島課長）